

報道各位

第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示帰国展 Cosmo-Eggs | 宇宙の卵 2020年4月18日[土]—6月21日[日]

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館（館長 石橋 寛）は、国際交流基金と共催で第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館展示「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」（2019年開催）の帰国展を開催します。ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展は、イタリアのヴェネチアの各所を会場とし、2年に一度開催される現代美術の国際展です。1895年から120年以上の歴史を重ね、今なお大きな影響力を持っています。ヴェネチア・ビエンナーレの日本館は、石橋財団の創設者である石橋正二郎が建設寄贈、1956年に開館しました。そのような歴史的つながりから、このたび当館で帰国展を開催することとなりました。2019年、第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館展示「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」は、キュレーターの服部浩之を中心に、美術家、作曲家、人類学者、建築家という4つの異なる専門分野のアーティストが協働し、人間同士や人間と非人間の「共存」「共生」をテーマに構成されました。本展は、ヴェネチアでの展示をもとに、アーティゾン美術館の展示室にあわせて再構成するものです。映像・音楽・言葉・空間の4つの要素が共存するインスタレーションに、ドキュメントやアーカイブなどの新たな要素を加えご紹介いたします。



①日本館展示風景（撮影：ArchiBIMing / 写真提供：国際交流基金）（参考図版）

本展の構成・特徴・見どころ

(1) 第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館展示

「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」の帰国展

本展は、第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館展示「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」(国際交流基金主催)を、アーティゾン美術館で帰国展として再構成して展示するものです。

(2) ヴェネチア・ビエンナーレと日本館

1895年に最初の美術展が開催されて以来、120年以上の歴史を刻むヴェネチア・ビエンナーレ。国際美術展としては最も歴史が古く、日本は1952年から公式参加し、1956年には日本館が各国のパビリオンが立ち並ぶカステッロ公園内に開館しました。この建物は、石橋財団の創設者、石橋正二郎が建設寄贈したことにより実現したものです。そうした歴史的なつながりから、このたび石橋財団アーティゾン美術館で帰国展を開催することになったものです。

(3) 服部浩之によるキュレーション

服部浩之キュレーションによる「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」は、地球という時空間において、人がいかに動植物や土地と関わり生きていくことができるかを問うています。様々な自然災害や人災に見舞われる日本に暮らすわれわれが、地球という生態系における人間存在そのものを改めて問い、人間と非人間の共存や、限界が露呈しはじめている成長志向の社会を再考し、新たな暮らしのあり方を提示する試みです。

(4) 展覧会の起点 — 津波石

本展は、アーティストの下道基行が2015年以来調査と撮影を続けている「津波石」の映像を起点としています。津波石は、大津波により海底から陸上に運ばれた巨石で、世界各地に散在します。災害の記憶を留める自然石でありながら、時には地域の信仰の対象となり、地域に様々な物語が伝えられ、渡り鳥のコロニーや昆虫の棲家となって、自然と文化が混ざり合った独特の景観を形成してきました。下道は、隕石や巨大な卵のようにも見える津波石を広場、あるいはモニュメントに喩えます。

(5) 異なる専門分野の表現者の協働プロジェクト

本展は、下道の作品《津波石》を軸としながら、広場であるという思考を拡張し、安野太郎(作曲家)、石倉敏明(人類学者)、能作文徳(建築家)と協働することで、静かで穏やかな視覚世界に音楽が響き、言葉が重ねられ、統合された一つの空間に多様な身体経験を生み出します。一人の作家が国を代表するのではなく、異なった職能をもつ専門家の集団(コレクティブ)によって、現代の根源的課題を想像し思考する体験の場をつくることを試みます。

キュレーター服部浩之によるステートメント

本展は、ヴェネチア・ビエンナーレ日本館展示室を再現したインスタレーション空間を中心とし、それに注釈を与えるように分析を加え、制作過程で生じた様々な要素を紹介することで、プロジェクト「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」を改めて検証するかたちをとります。

日本館の建築空間と密接に呼応する本作のエッセンスを迫体験していただけるようなあり方で、「帰国展」という構造にも応答する方法として、演劇の舞台のように日本館を再現することで、身体的経験と客観的考察を往来可能な形式を目指しました。プロジェクトを構成する各種素材、ビエンナーレで副産物的に生まれたもの、ビエンナーレ開幕前から帰国展までのプロセスの記録など、各種資料なども交えて、一步外側から「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」を捉えるドキュメントやアーカイブとしての側面も備えた展覧会となります。

キュレーター、アーティスト 略歴

キュレーター

服部浩之(はっとり ひろゆき)

1978 年生まれ。秋田公立美術大学大学院准教授。アジアを中心に展覧会、プロジェクトなどを展開。「あいちトリエンナーレ 2016」「近くへの遠回り」(キューバ、2018)など多数企画。

アーティスト

下道基行(したみち もとゆき)

1978 年生まれ。美術家。代表作に、日本の植民地時代に残された世界各地の鳥居を撮影したシリーズ《torii》や、大津波により海底から陸上に運ばれた巨石を取材し撮影したシリーズ《Tsunami Boulder》がある。

安野太郎(やすの たろう)

1979 年生まれ。作曲家。作曲とメディアアートを学び、アーティストとのコラボレーションも多数実施。代表作《ゾンビ音楽》は、複数のリコーダーに空気を送り込み、自動演奏によって奏でる音楽作品。

石倉敏明(いしくら としあき)

1974 年生まれ。人類学者。秋田公立美術大学美術学部准教授。神話や宗教を専門とし、アーティストとの協働制作を行うなど、人類学と現代芸術を結ぶ独自の活動を展開している。

能作文徳(のうさく ふみのり)

1982 年生まれ。建築家。建築設計だけでなく、アート作品、空間インスタレーションも手掛ける。2016 年第 15 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展では日本館展示に出品し、特別表彰受賞。

関連プログラム(都合により変更する可能性があります)

■土曜講座「アーティスト・トーク」

5月9日[土]14:00-15:30

対談：下道基行+安野太郎 × 小沢剛(アーティスト)

モデレーター：服部浩之

5月16日[土]15:00-16:30

対談：能作文徳 × 貝島桃代(建築家、第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展(2018)日本館キュレーター)

モデレーター：服部浩之

5月23日[土]14:00-15:30

対談：石倉敏明 × 鴻池朋子(アーティスト)

*同時開催のジャム・セッション展共同企画

当展出品作家が、それぞれの分野のアーティストを招いてトークを繰り広げます。

場 所：3階レクチャールーム

聴講料：無料

定 員：80人(各回)

※当日は講座の始まる2時間前からレクチャールーム前で整理券を配付します。定員になり次第、受付終了。

開催概要

- 展覧会名 : 第 58 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示帰国展
Cosmo-Eggs | 宇宙の卵
- 主催 : 公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館、独立行政法人国際交流基金
- 展示機材協力 : キヤノンマーケティングジャパン株式会社
- 会場 : アーティゾン美術館 5 階展示室
- 会期 : 2020 年 4 月 18 日 [土] - 6 月 21 日 [日]
- 開館時間 : 10:00 - 18:00 (毎週金曜日は 20:00 まで) * 入館は閉館の 30 分前まで
- 休館日 : 月曜日 (5 月 4 日は開館)
- 入館料 (税込) : 日時指定予約制 (2 月 18 日 [火] よりウェブ予約開始)
一般ウェブ予約チケット 1,100 円、当日チケット (窓口販売) 1,500 円、
学生無料 (要ウェブ予約)*
ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でも当日
チケットを販売します。
*中学生以下の方はウェブ予約不要です。
*同時開催の他の 2 つの展覧会をご覧ください。

- キュレーター 服部浩之 (秋田公立美術大学大学院准教授)
- アーティスト 下道基行 (美術家)、安野太郎 (作曲家)、石倉敏明 (人類学者、秋田公立美術大学准教授)、能作文徳 (建築家、東京電機大学准教授)

同時開催

ジャム・セッション 石橋財団コレクション × 鴻池朋子

鴻池朋子 ちゅうがえり (6 階展示室)

新収蔵作品特別展示 : パウル・クレー (4 階展示室 コレクション選 特集コーナー展示)



アーティゾン美術館 〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2
Tel 03-5777-8600 (ハローダイヤル) <https://www.artizon.museum>

交通案内

JR 東京駅 (八重洲中央口)、
東京メトロ銀座線・京橋駅 (6 番、7 番出口)、
東京メトロ・銀座線 / 東西線 / 都営浅草線・
日本橋駅 (B1 出口) から徒歩 5 分

広報用図版

※1点のみ掲載の場合は p.1 掲載のメインビジュアル①をお使いください。

※掲載時には必ずクレジットをご記載ください。

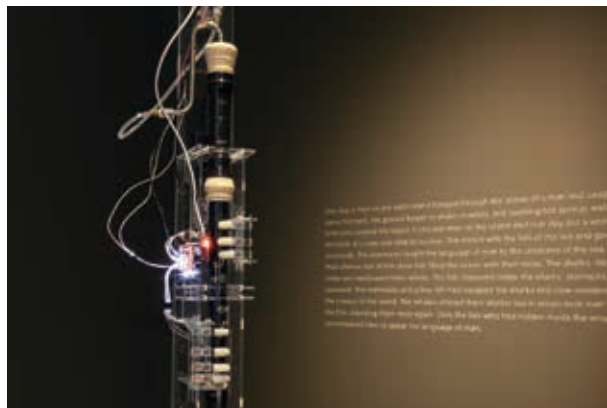
※文字載せやトリミングはご遠慮ください。

②



②③日本館展示風景（撮影：ArchiBIMing/ 写真提供：国際交流基金）

③



④



下道基行《Tsunami Boulder》より 2015年

⑤



キュレーター・アーティスト近影 左より：下道基行、能作文徳、服部浩之、石倉敏明、安野太郎 撮影：高橋希

本プレスリリースについてのお問合せ先

「アーティゾン美術館第2期展覧会」広報事務局(株式会社 OHANA 内)

担当：高橋・細川・妹尾

TEL: 03-6869-7881 FAX: 03-6869-7801

E-mail: artizon-pr@ohanapr.co.jp

〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-5-6 リそな九段ビル 5F

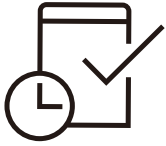
公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館についてのお問合せ先

アーティゾン美術館 広報部

TEL: 03-3563-0241 FAX: 03-3561-2130

E-mail: publicity@artizon.jp

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2



アーティゾン美術館は日時指定予約制です

当館ウェブサイトよりご来館前に「ウェブ予約チケット」をご購入いただけます。

入館料 (税込)

	一般	大学生・専門学校生 高校生	障がい者手帳をお持ちの方と 付き添いの方1名	中学生以下
ウェブ予約チケット	1,100 円	無料 要予約 ウェブ予約をされない場合は 「当日チケット」(一般)をご購入ください。		無料 予約不要
当日チケット(窓口販売)	1,500 円			

*ウェブ予約チケット：各入館時間枠の終了 10 分前まで販売

*当日チケット：ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ販売

日時指定予約制とは

入館までの待ち時間の緩和、より快適な鑑賞環境をご提供するために、1 日を以下の入館時間枠に区切り、その時間枠内にご入館頂きます。

- ① 10:00-11:30 ② 12:00-13:30 ③ 14:00-15:30 ④ 16:00-17:30
- ⑤ 金曜日のみ 18:00-19:30

- 指定した時間枠内であれば、いつでもご入館頂けます。
- 入館後は閉館まで時間制限なくご鑑賞頂けます。入替制ではありません。
- 各時間枠の開始時刻直後は混雑が予想され、入館をお待ち頂く場合があります。開始時刻から多少遅れてのご来館をおすすめします。

ウェブ予約チケット購入方法

- 販売開始日 2020年2月18日 [火]
当館ウェブサイトの中の「チケット購入」画面からご希望のご来館日と入館時間枠をご指定ください。
- 当日でも各入館時間枠の終了 10 分前までご購入頂けます。
- 各種クレジットカードがご利用頂けます。

<https://www.artizon.museum>

「ウェブ予約チケット」の受け取りおよび入館方法

- ① チケットの購入が完了すると、ご指定のメールアドレスに URL を記載したメールが届きます。
- ② この URL にアクセスすると QR コードを取得できます。
- ③ QR コードをお持ちのスマートフォンに表示してご入館ください。
QR コードを紙に印刷してご入館頂く事も可能です。

当日チケットについて

ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でもチケットを販売します。

予約について

- * 大学生・専門学校生・高校生は無料ですが、入館時間枠の予約が必要です。
入館時に学生証または生徒手帳をご提示ください。
- * 中学生以下の方は無料です。なお、入館時間枠の予約は必要ありません。
- * 障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方 1 名は無料ですが、入館時間枠の予約が必要です。
入館時に障がい者手帳をご提示ください。

グループでのご来館について

- * 中学生以下の方が 10 名以上で来館される場合は、事前に下記までご連絡ください。
ご連絡のない場合、展示室の混雑状況によってはご入館頂けない場合があります。
E-mail: groupdesk@artizon.jp

注意事項

- * 予約確定後はキャンセルすることはできません。
- * 日時指定の変更は1回に限り可能です。
- * 団体割引、シニア割引はございません。
- * 指定日時以外の入館はできません。
- * 営利目的でのチケット転売はお断りします。